

～総合技術研修の様子～

総合技術研修では、花き・野菜のコース別に各主要品目について、講義や演習、実習や実際の生産現場等の視察など理論から実践までを体系的に学ぶことができます。

ここでは、実際の研修の様子をお伝えします。

<開講式>

4月



<講義>

4～9月

花き・野菜それぞれの各品目別に、特徴や栽培法などの基礎的な知識についての講義、さらには土壌や病害虫、農業資材、経営や農地制度などの講義も行っています。講師は本センターの研究員等が務めます。



＜演習・実習＞ 4～10月

各コース・各品目について、基本的な栽培方法について、培土づくりからスタートし播種育苗・定植から収穫までを
実践形式で学びます。

■培土づくり 4月

各種用土をブレンドして、播種用の培土を作ります。

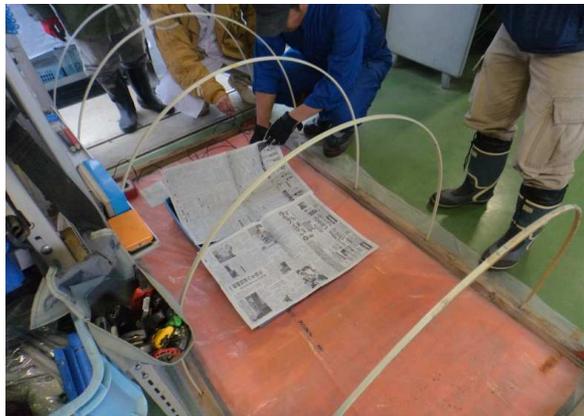


■播種 4～5月

育苗を必要とする品目では、培土づくりのあとに定植時期に合わせて播種を行います。



上段 左：メロン、右：キャベツ。 下段 左：ペチュニア、右：マリーゴールド。



少量・他品目を扱うため、品目ごとに適した条件で播種します。左のオレンジの部分は電熱マットになっていて、発芽までの間はこれで加温します。

■育苗管理 4～6月

鉢上げ作業一般を学びます。

ポットに鉢上げしてから植えるもの、セルトレイから直接機械定植するもの、様々です。接ぎ木作業の講義・実習もあります。



上段左：カンナ、右：スターチス。 下段左：かぼちゃ、右：メロン。
メロンは、接ぎ木実習も同時に行います。



加温温室で管理する品目や、無加温ハウスで育てる品目などがあります。
左：花壇用苗各種、右：キャベツ・レタス・ブロッコリー。

■ 露地栽培作業 5～7月



露地直播作業の様子です。
上段左右：スイートコーン、下段左：だいこん、右：ひまわり。

■ 定植準備 4～6月

施肥のための区画割りや、ベッド造成等の作業を職員の指導のもとで行います。



1 段目：左が露地、右がハウスの区画割り作業。2 段目：左が肥料の計量作業、右が施肥作業。
3 段目：左が露地、右がハウスのマルチング。4 段目はいちご用高設栽培用のベッド作りです。

■定植 4～6月

品目ごとに栽植密度、マルチの有無・色が異なることから、手植えによる作業を行います。
一部の品目（たまねぎ、ねぎ、アブラナ科野菜等）については、機械定植を行います。



1 段目左：トルコギキョウ、右：カーネーション、2 段目左：花壇、右：トマト、3 段目左：かぼちゃ、右：たまねぎ、4 段目左：ブロッコリー、右：ねぎ。

ブロッコリー、キャベツ、レタスでは汎用移植機を使っています。ねぎは農家慣行のチェーンポット育苗と専用の定植器(ひっぱりくん)を用います。

■栽培管理 5～9月

収穫までの管理は、各品目でリーダーを決め、職員のアドバイスをを受けながら自分たちで進行管理します。

防除や除草を始め、品目によって整枝や摘心、誘引作業を行います。作業の進捗状況は、毎週1回ほ場巡回を行い、職員と確認していきます。



1 段目：防除。左は背負い式、右はエンジンポンプの動噴式です。

2 段目：除草。右は狭い部分用の手押し式中耕機です。

3 段目：誘引作業。左がピーマン、右がトマト。ピーマンはひもで、トマトはイボ竹を使用して誘引します。

4 段左はメロンの整枝作業。右はトルコギキョウの摘花作業です。

■収穫・調査 7～10月

各品目について、収穫後、サイズや重量、規格などの調査を行います。行ってきた栽培管理に対しての結果や品種特性等を知る良い機会となります。



1 段目：野菜の収穫調査、左はブロッコリー、右はスイートコーン。

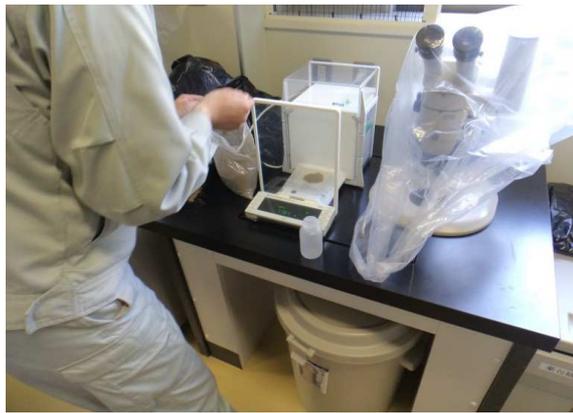
2 段目：花きの採花調査、左がスターチス、右がゆりです。

■その他演習等 4～9月

作物の栽培作業以外にも、除草剤の効果実証や土壌分析、パイプハウス組立等を行っています。



除草剤の効果実証。除草剤の有無が、雑草の発生にどれだけ影響するかを実際に確認します。



1・2段目：土壤診断作業。実際に自分たちが使うほ場からサンプル採取を行い、分析作業を行います。

3・4段目：パイプハウス設置実習。更地に設置するため、アースドリルで穴を開けるところから作業します。最後はビニールまで張って完成です。



土壌生成の実習作業。実際にはほ場を掘り起こし、ほ場の土壌断面がどのような状態になっているかを自分の目と体で確認します。

■ 報告書の作製

調査後はデータをまとめ報告書を作成、提出してもらいます。

これは、研修の総仕上げとしてその年の生育経過などの知見を次年度以降の研修生にアドバイスとして残す目的もあり、最終的に冊子を作成しています。



■自主栽培と報告会 4～10月

花き・野菜の各コースにおいて、主要品目をカリキュラムとして設定し、基本的な計画に基づき生育状況に応じた管理方法を学んでいきますが、さらに自主栽培として、実際の就農時に実際に取り組んでみたい品目・栽培方法について研修生自らが選択します。4月の入講と同時に計画・立案を行います。

また、これらを将来の営農に活かすため、最終的な成果をまとめ、発表する機会を設けています。

これにより、自らの考えをまとめて発信することを経験します。これからの農家に必要な「発信力」を養います。



1段目は、左：花きのダイアンサス（テマリソウ）栽培、右：オクラの品種比較。

2段目は、左：種子繁殖性イチゴの電照栽培・電照時の様子、右：報告会の様子です。研修生がプレゼンテーションのソフトを用いて成果を説明しています。

<修了式> **10月**

こうして約6ヶ月間に渡る研修が終了します。
かなりの長丁場ですが、濃密な経験が出来るかと思えます！



センターでの栽培実習だけでなく、卸売市場や集出荷施設、また研修生が興味を持っている品目を実際に栽培している生産者等、生産・流通の現場へ伺い、経営や作業の様子等、“生の声”を見聞きして知識を深める視察研修の場も設けています。



視察先は、研修生に品目や栽培方法等、自分が興味を持っている事柄を聞き取り、受け入れ先の調整を行います。

全て別の生産者ですが、1段目は左右どちらもトマト、2段目左はピーマン、右はイチゴです。

また、3段目のように道産野菜が多く流通する時期をめぐって、卸売市場にて流通側からの話を伺う場も設けています。

<フォローアップセミナー> **6月**

研修修了後にも、「フォローアップセミナー」として過去の研修生に声かけし、現在行っている主な試験研究についての説明や、実際に営農を開始してみても気付いた課題や疑問について情報交換し、解決を図っていく意見交換会を実施しています。

これには現研修生も参加し、特に自主栽培の品目について説明し研修修了生に感想を聞いたり、意見交換会にも参加し先輩達の現況を知る機会としています。



<販売実習> 8月

センターでは、実際の試験研究やその成果について広く皆さんに知って頂こうということから、例年8月上旬に公開デーを実施しています。

この時に、販売実習として研修で自分たちが栽培した作物を、商品の包装やディスプレイ、対面での販売等、実際に自分たちで行う販売実習を行っています。平成28年度はミニトマト、ピーマンなどの他に、極早生たまねぎや珍しい野菜（とんがりキャベツ等）を販売し、好評を得ました。

扱う作物についての質問にも答えられるよう、準備して臨んでいます。



<研修期間中の生活> 4月~10月

研修期間中は当センターの研修寮で生活して頂くことになります。寮は場内にありますので、ハウスの換気調節などきめ細かい栽培管理が行えるかと思えます。

部屋は個室で、食堂や浴場、談話室、小体育館などの共有スペースを備えています。

所定の時間までに通える方は、通って頂くことも可能です。

